

韓国環境部プレスリリース 2020年1月15日付

京畿道漣川郡民間制限線内の野生いのしし死体から ASF ウイルス 2 件検出
(野生いのしし 73-74 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1189270&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)で発見された野生いのしし死体 2 個体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 15 日明らかにした。

死体は 1 月 14 日長南面(チャンナムミョン)民間制限線内 2 次フェンスの中の軍部隊射撃場で発見された。漣川郡(ヨンチョンゴン)は ASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を埋却処理した。

国立環境科学院は 1 月 15 日死体で ASF ウイルス 確認結果を関係機関に通知した。これで漣川郡(ヨンチョンゴン)で合計 28 件の野生いのししの ASF 陽性事例となり、全国的には 74 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全て民間制限線内 2 次フェンスの中で発見された。軍と協力してこの地域で死体捜索を強化する予定だ"と話した。

以上